

1. 事業の概要

大学等が有する高度な技術や知見を幅広く活用し、海洋情報をより効率的かつ高精度に把握する革新的な観測・計測技術を研究開発するとともに、開発された成果を民間企業等へ技術移転することで、海洋観測を促進することを旨とする。

2. 決定までの経緯

公募期間：平成30年4月18日（木）～平成30年5月19日（金）（30日間）

応募件数：**8件**（うち海洋酸性化・地球温暖化3件、生物多様性2件、マイクロプラスチック3件）

3. 決定した採択課題等

外部有識者から構成される外部評価委員会による審査を踏まえて、採択課題（別紙）を決定。

（1）審査スケジュール

書面審査：平成30年5月24日（木）～6月5日（火）

ヒアリング審査：平成30年6月12日（火）

（2）外部評価委員

磯辺 篤彦

国立大学法人九州大学 応用力学研究所教授

植松 光夫

国立大学法人東京大学 大気海洋研究所客員教授

河野 健

国立研究開発法人海洋研究開発機構 研究担当理事補佐

（主査）小池 勲夫

国立大学法人琉球大学 顧問

中田 薫

国立研究開発法人水産研究・教育機構 理事（人材育成担当）

中原 裕幸

一般社団法人海洋産業研究会 常務理事

(別紙) 採択課題の概要

テーマ	海洋酸性化・地球温暖化に関わる情報取得のための技術開発	生物多様性に関わる情報取得のための技術開発	マイクロプラスチックに関わる情報取得のための技術開発
課題名	BGC-Argo 搭載自動連続炭酸系計測システムの開発	海洋生物遺伝子情報の自動取得に向けた基盤技術の開発と実用化	ハイパースペクトルカメラによるマイクロプラスチック自動分析手法の開発
目標	アルカリ度を自動連続かつ高い精度で、フロートに搭載して計測できるシステムを開発する。	船上や実海域において、DNAのサンプル採取からデータ解析までを自動で行う装置を開発する。	船上において、マイクロプラスチックの材質・形状・サイズ・個数を、迅速かつ自動で分析できる分析システムを開発する。
開発内容			
体制	<p>中核機関：東京大学大学院理学系研究科 研究代表者：茅根 創</p> <p>分担機関：産業技術総合研究所、 琉球大学、スクリップス海洋研究所</p>	<p>中核機関：東京大学大気海洋研究所 研究代表者：濱崎 恒二</p> <p>分担機関：千葉県立中央博物館、 海洋研究開発機構</p>	<p>中核機関：海洋研究開発機構 研究代表者：藤倉 克則</p> <p>分担機関：横浜国立大学</p>